

排水基準を定める省令の一部を改正する省令 参照条文

水質汚濁防止法（昭和四十五年法律第百三十八号） （抄）

（定義）

第二条 （略）

2 この法律において「特定施設」とは、次の各号のいずれかの要件を備える汚水又は廃液を排出する施設で政令で定めるものをいう。

一 カドミウムその他の人の健康に係る被害を生ずるおそれがある物質として政令で定める物質（以下「有害物質」という。）を含むこと。

二 化学的酸素要求量その他の水の汚染状態（熱によるものを含み、前号に規定する物質によるものを除く。）を示す項目として政令で定める項目に関し、生活環境に係る被害を生ずるおそれがある程度のものであること。

3～5 （略）

6 この法律において「排水」とは、特定施設（指定地域特定施設を含む。以下同じ。）を設置する工場又は事業場（以下「特定事業場」という。）から公共用水域に排出される水をいう。

7～9 （略）

（排水基準）

第三条 排水基準は、排水の汚染状態（熱によるものを含む。以下同じ。）について、環境省令で定める。

2～5 （略）

（経過措置）

第二十七条 この法律の規定に基づき命令を制定し、又は改廃する場合には、その命令で、その制定又は改廃に伴い合理的に必要と判断される範囲内において、所要の経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）を定めることができる。

排水基準を定める省令（昭和四十六年総理府令第三十五号） （抄）

（排水基準）

第一条 水質汚濁防止法（昭和四十五年法律第百三十八号。以下「法」という。）第三条第一項の排水基準は、同条第二項の有害物質（以下「有害物質」という。）による排水の汚染状態については、別表第一の上欄に掲げる有害物質の種類ごとに同表の下欄に掲げるとおりとし、その他の排水の汚染状態については、別表第二の上欄に掲げる項目ごとに同表の下欄に掲げるとおりとする。

（検定方法）

第二条 前条に規定する排水基準は、環境大臣が定める方法により検定した場合における検出値によるものとする。

附則

（施行期日）

- 1 この府令は、法の施行の日（昭和四十六年六月二十四日）から施行する。（経過措置）
- 2 附則別表の上欄の項目ごとに同表の中欄に掲げる業種に属する工場又は事業場に係る排水（窒素又は燐が海洋植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある海域（湖沼であつて水の塩素イオン含有量が一リットルにつき九、〇〇〇ミリグラムを超えるものを含む。以下同じ。）及びこれに流入する公共用水域に排出されるものに限る。）の汚染状態についての法第三条第一項の排水基準は、平成二十五年九月三十日までの間は、第一条の規定にかかわらず、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。
- 3 6（略）

附則別表

| 項目 | 業種 | 許容限度 |
|-----------------------------|---|----------------|
| 窒素含有量 (単位 一リットルにつきミリグラム) | 天然ガス鉱業 | 一六〇(日間平均一五〇) |
| | 畜産農業(令別表第一第一号の二イに掲げる施設を有するものに限る。) | 一九〇(日間平均一五〇) |
| 燐含有量 (単位 一リットルにつきミリグラム) | 酸化コバルト製造業 | 五五〇(日間平均三〇〇) |
| | バナジウム化合物製造業及びモリブデン化合物製造業(バナジウム化合物又はモリブデン化合物の塩析工程を有するものに限る。) | 五〇〇〇(日間平均三八五〇) |
| 燐含有量 (単位 一リットルにつきミリグラム) | 畜産農業(令別表第一第一号の二イに掲げる施設を有するものに限る。) | 三〇(日間平均二四) |
| | 燐化合物製造業(縮合燐酸塩製造工程を有するものに限る。) | 四〇(日間平均一〇) |

備考

- 1 別表第二の備考1及び2の規定は、この表に掲げる排水基準について準用する。
- 2 この表に掲げる窒素含有量についての排水基準は、窒素が海洋植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある海域として別表第二の備考6に基づき環境大臣が定める海域及びこれに流入する公共用水域(窒素に係る特定湖沼及びこれに流入する公共用水域を除く。)に排出される排水に限って適用する。

3 この表に掲げる^{りん}燃含有量についての排水基準は、^{りん}燐が海洋植物プランクトンの著しい^{ぼく}増殖をもたらすおそれがある海域として別表第二の備考7に基づき環境大臣が定める海域及びこれに流入する公共用水域（^{りん}燐に係る特定湖沼及びこれに流入する公共用水域を除く。）に排出される排水に限って適用する。

4 この表の上欄に掲げる項目ごとに同表の中欄に掲げる業種に属する工場又は事業場が同時に他の業種に属する場合において、別表第二又はこの表によりその業種につき異なる許容限度の排水基準が定められているときは、当該工場又は事業場に^{りん}係る排水については、それらの排水基準のうち、最大の許容限度のものを適用する。

5 この表に掲げる排水基準は、工場又は事業場に^{りん}係る汚水等を処理する事業場に^{りん}係る排水については、当該事業場が当該工場又は事業場の属する業種に属するものとみなして適用する。この場合において、別表第二又はこの表により当該工場又は事業場が属する業種につき異なる許容限度の排水基準が定められているときは、4の規定を準用する。